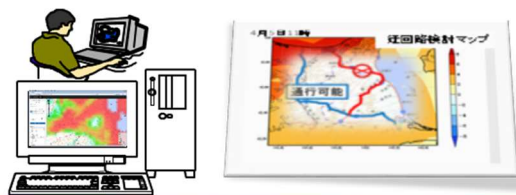
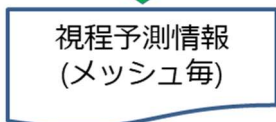
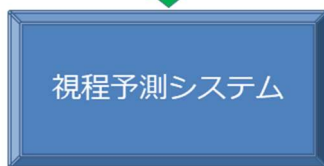
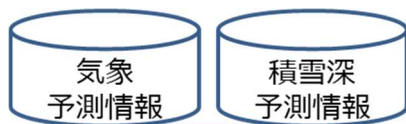


本発明は、吹雪による視程障害を防止するために重要な瞬間的な最低視程を予測するものです。地吹雪の強さは、風の強さや気温、積もった雪の表面が固まっているかどうかなどによって変化します。風速と気温、降雪量を予測するデータと、積雪の深さの実況値などから、雪面の状態を判定するとともに、雪面から舞い上がる吹雪の強度を計算し、さらに瞬間的な強風も考慮して、吹雪が発生した際に人が見渡せる距離（視程）を予測します。

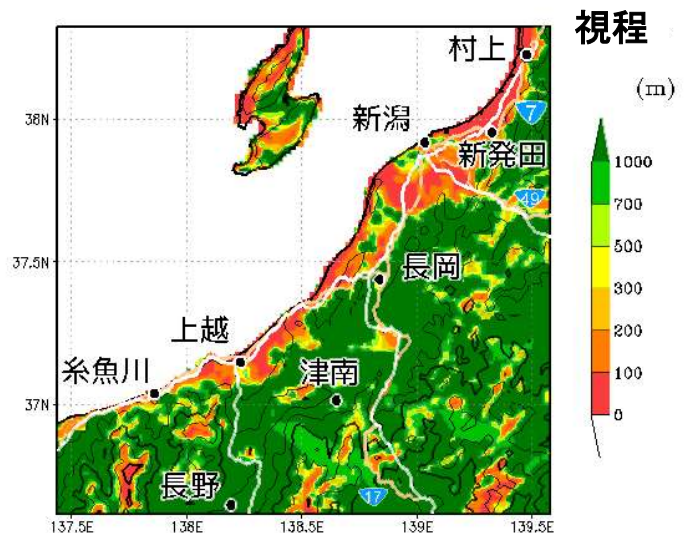
発明のポイント

- 防災上重要な、瞬間的な最低視程を予測する方法を提案
- 適用地域や適用時期が限定されることなく吹雪に伴う視程障害が予測可能となる（物理モデル）



予測 ⇒ 通行止め、避難所設置 ⇒ う回路検討

- ・様々な雪面状態に依存する吹雪の発達程度を考慮
- ・降雪の影響を考慮
- ・気温依存性を考慮
- ・変動する吹雪によって生じる瞬間的な最低視程を予測



視程予測情報の表示例

従来技術との比較

従来一般的な吹雪予測手法の課題(吹雪が十分に発達していることを前提とする、吹雪の発達程度に依存する視程障害を的確に評価できない、降雪が吹雪の発達に及ぼす影響を直接的に考慮していない、変動する吹雪によって生じる瞬間的な最低視程を予測することができない等)を改善した。

利用分野

- ・冬期間の道路管理や吹雪対策の効率化
- ・吹雪による災害防止(交通事故、道路交通のマヒ、列車の立往生等)
- ・地面に積もった雪が強風の状況でどれくらいの範囲に飛ばるか(輸送されるか運ばれるか)の推定等に役立てられる。